

# 音 楽

## Music

音楽科は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す教科です。

そのためには、音や音楽を音楽を形づくっている要素とその働きから捉え、課題解決に向けて活用し、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図っていくことが大切です。その際、「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導については、表現領域と鑑賞領域の関連や、歌唱、器楽、音楽づくり・創作の各分野間の関連を図り、それぞれが特定の活動で終わらないようにすることも大切です。

### 【音楽科のページで使用されている用語解説】

共通教材	唱歌や童謡、わらべ歌、歌曲等、各学年で指導することを学習指導要領で示された歌唱教材。
〔共通事項〕	「A 表現」及び「B 鑑賞」の全ての活動において共通に指導する内容。
音楽を形づくっている要素	音色、リズム、速度、旋律、強弱、テクスチャ、形式、構成など、音楽を構成するもととなるもの。

## 1 題材のつくり方

音楽科では、第1章の2で示すAパターンの題材の構想が多くなります。「つかむ」過程では、児童生徒の興味・関心や既習事項、音楽を形づくっている要素を結び付けて題材の課題を設定します。「追求する」過程では、単位時間ごとに、課題解決に向けて思いや意図と音楽を形づくっている要素とを関連付け、音楽表現を積み重ねます。そして、「まとめる」過程では、発表等を通して音楽表現の高まりを価値付け、実感させながら、題材で身に付けさせたい資質・能力を育成していきます。

### 「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

#### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 題材に対する興味・関心を高められるよう、聴かせ方や資料の提示の仕方を工夫する。
- 音や音楽の特徴を捉えることができるよう、感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とその働きを問いかける。
- 見通しをもって取り組むことができるよう、児童生徒のイメージと〔共通事項〕を手がかりに、題材で何を学ぶのかを確認させる。

- 一人一人が表したい思いや意図を音楽を形づくっている要素とその働きの視点で結び付けさせる。
- 音や音楽、言葉で伝え合ったり、曲を聴き直したりしながら表現させる。  
※必要な知識及び技能も併せて習得させる。
- 表現の高まりを共有・共感し、表したい思いや意図をより膨らませることができるよう、表現を繰り返し試行させたり、表現を価値付けたりする場を設定する。

- 題材を通しての互いの表現や技能の高まりを実感することができるよう、表現のよさや面白さを伝え合ったり認めたりする場を設定する。
- 題材における学びを、音楽を形づくっている要素とその働きや生活や文化等と関連付けた振り返りをさせる。

### 過程と基本的な学習活動

#### 1 題材の課題を把握する。

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気と音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

#### 【題材の課題】

〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に注目して探る。

#### 2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

#### 単位時間

#### 【めあてをつかむ】

◇表したい思いや意図をもつ。

繰り返す

更新する

◇音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現を試しながら工夫する。

更新する

◇表現の高まりを共有・共感し、その後の表現に生かす。

【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

追  
求  
す  
る

ま  
と  
め  
る

#### 3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

題材全体の振り返り

重要：題材をつくる際には、適宜〔共通事項〕を要として各領域や分野の内容の関連を図って構成していく。また、一題材の学習過程だけでなく、年間を見通して各題材間における各領域や分野の関連を図る。

**小学校 第4学年**  
「日本の音楽に親しもう」(全6時間計画)

【目標】

日本の音楽の雰囲気や旋律の特徴を感じ取りながら民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。

**1 題材の課題を把握する。**

- ◇「ソーラン節」「八木節」を聴き、感じたことを自由に伝え合う。
- ◇旋律を歌ったり手拍子をしたりしながら、日本の音楽の特徴を音楽を形づくっている要素と結び付けて聴く。
- ◇聴き取ったことを基に、題材でどのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

**【題材の課題】 日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくろう。**

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇「こきりこ」を聴き、音楽の雰囲気が醸し出す理由を五音階やリズムの特徴に着目して探る。

**2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。**

①前時までに学習した民謡の特徴を基に、どんな旋律をつくりたいかという思いや意図をもつ。

5つの音の中から低い音を使ったら、面白い旋律ができた。次の時間に友達がつくった旋律をつなげるとどんな感じになるのか楽しみだな。

②グループで旋律をつなげて演奏し、グループの「おはよしの旋律」をまとめる。

低い旋律の後に高い旋律をつなげてみたら、「呼びかけとこたえ」みたいで面白くなったよ。次の時間はリズム伴奏を重ねておはやしを盛り上げていきたいな。

③リズム伴奏を工夫し、旋律と合わせて演奏する。

自分たちのつくったおはやしに、太鼓を加えたら、おはよしの旋律とうまく重なって面白いおはやしになったよ。次の時間の発表が楽しみだな。

**3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る。**

- ◇グループごとにお囃子を演奏し、互いに聴き合う。
- ◇学級全体で各グループのお囃子のよさや面白さを交流する。
- ◇題材の学びを振り返る。

自分のつくった低い音を使った旋律と友達のとくった高い音を使った旋律をつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができて、自分たちのつくったおはやしができた。  
これからは、お祭りのとき、どんなおはやしが流れているかも聴いてみたいと思った。

**中学校 第2学年**  
「曲の構成を理解して曲想を味わおう」(全5時間計画)

【目標】

構成や形式等に注目しながら鑑賞したり創作したりすることを通して、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現をすることができるようにする。

**1 題材の課題を把握する。**

- ◇「交響曲第5番ハ短調第1楽章」(ベートーヴェン作曲)を聴き、感じたことを自由に伝え合う。
- ◇音楽の特徴を、「動機」の働きが生み出す特質や雰囲気と結び付けて聴く。
- ◇聴き取ったことを基に、題材でどのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

**【題材の課題】 曲の構成や形式の特徴を聴き取り、聴き取ったことを生かしてリズムアンサンブルを創作しよう。**

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音楽の雰囲気が醸し出す理由をソナタ形式や曲に込められた思いに着目して探る。

**2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。**

①グループごとにリズムアンサンブルのテーマを決め、基となるリズム・パターンをつくる。

テーマ(ハンバーグの作り方)を基に、ハンバーグの材料(パン粉)のリズムができた。次の時間に、どのように構成していくとテーマに合うリズムアンサンブルになるのか楽しみだな。

②構成図を用いて、自分たちの思いや意図に合ったリズムアンサンブルを試行しながら、創意工夫する。

4拍ずつずらして重ねてみたら、材料を混ぜていく様子が表現できて、テーマに合ったリズムアンサンブルになった。発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えて、みんなの前で発表したい。

**3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る。**

- ◇グループごとにリズムアンサンブルを発表し、互いに聴き合う。
- ◇学級全体で各グループの作品のよさや面白さを交流する。
- ◇題材の学びを振り返る。

作曲家は曲をつくるために、構成や形式を踏まえているだけでなく、「このように運命の扉をたたく。」といったように、思いを込めていることが分かった。リズムアンサンブルでも、構成を工夫してテーマがより伝わるアンサンブルになるように創作することもできた。

これからは一つ一つの曲に、今まで以上に気持ちを込めて歌ったり演奏したりしていこうと思った。

## 2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、児童生徒が音や音楽に出会ったときのイメージや感情を大切にするとともに、音楽を形づくっている要素と結び付けさせながら児童生徒が追求したい音楽表現に関わる題材の課題を設定します。そして、児童生徒に題材で何を学ぶのかを意識付け、興味・関心を高めさせましょう。

### ※「B鑑賞」を例に 【指導のポイント】

#### 【興味・関心を高めるために】

- 児童生徒の実態に応じた聴かせ方をしたり、資料の提示の仕方を選択したりする。
- <例>
- ◆めあての設定につながる音源を示す。
- ◆特徴的な部分を聴き取らせる。
- ◆他の部分や曲を比較し聴き取らせる。
- ◆曲名を知らせずに聴かせる。
- ◆写真や実物等、視覚に訴える資料を提示する。 等

#### 【めあての設定】

- 基本的に題材のスタートにおいては、活動の要素を含んだめあての設定が多くなる。
- <例>
- 「～（曲名）のよさや面白さを見付けよう。」
- 「この曲が表している様子を、～を手がかりに探ろう。」 等

#### 【音や音楽の特徴を捉えるために】

- 児童生徒及び題材に合わせた活動を選択する。
- <例>
- ◆音楽に合わせて体を動かす。
- ◆感じ取ったことや気付いたことを伝え合う。
- ◆特徴的な部分を取り出して、聴いて確かめる。 等

#### 【題材の課題の設定】

- 子供たちのイメージと〔共通事項〕を支えに、題材で何を学ぶのかを共有する。
- <題材の課題の例>
- 「（音楽を形づくっている要素）に合わせて～しよう。」
- 「～の音楽に親しみ、（音楽を形づくっている要素）を生かして～みよう。」 等

#### 【振り返りについて】

- 本時の振り返りだけでなく、題材に対する思いや願いをもたせることで、学びの見通しや意欲をもたせる。
- <例>
- 「これからやってみたいことは何か。」
- 「これからどんなことを学んでいきたいか。」 等

※「つかむ」過程は、1単位時間全てを使わず、発達段階に応じてそのまま「追求する」過程へ進むことがあります。

### 基本的な流れ

#### 1 本時のめあてをつかむ。

- 音や音楽に出会わせ、題材で何を学ぶかをつかむための動機付けを行う。
- 児童生徒がはじめに捉えたイメージや感情を問いかける。
- 本時の大まかな活動の流れや、手がかりとなる音楽を形づくっている要素等を児童生徒につかませるめあてを設定する。

#### 【めあて】

#### 2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 児童生徒の気付きを手がかりにして、聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）とを教師が音楽を形づくっている要素を基に問いかけながら結び付ける。

#### 3 題材の課題をつかむ

- 各自が感じ取ったよさや面白さを音楽を形づくっている要素と関連付け、題材で追求していくことを板書等で焦点化する。

#### 【題材の課題】

<題材で取り組む大まかな音楽表現>

- ※1単位時間の中で「追求する」過程へ進むような場合は、「1. 本時のめあてをつかむ」段階で課題を提示することもある。
- 児童生徒の気付きと関連付けながら、課題解決に向けての大まかな見通しを確認させる。

#### 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 音や音楽のよさや面白さと、音楽を形づくっている要素との関わりを確認し、言葉や板書でまとめる。

#### 学習のまとめ

- 鑑賞して気付いたことや感じたこと、分かったことや「題材で何を学びたいか」を問いかける。

#### 振り返り



小学校 第4学年

「日本の音楽に親しもう」

【ねらい】

「ソーラン節」「八木節」を聴き、旋律を歌ったり手拍子をしたりしながら特徴を感じ取ることを通して、日本の音楽の特徴に興味・関心をもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「ソーラン節」「八木節」などの民謡を聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合わせる。



声の出し方が、合唱とは違っているね。



リズムを取っている楽器は、太鼓やかねだね。

【めあて】

いろいろな民謡を聴いて、日本の音楽のよさやおもしろさを見付けよう。

2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 民謡が生まれた背景について知り、歌詞の内容から民謡と生活との関わりを捉えさせる。
- 民謡のよさや面白さにつながる特徴を問いかける。

はじめの「ソーラン」の旋律はみんなで力を合わせている感じがするね。



「タン・タタ」のリズムが繰り返されているから、力を合わせて網を引く感じがするんだね。

ふしとふしの間に、「ヨイヨイ」や「ハードッコイ」などの掛け声が入っているね。



「合いの手」として調子を整える役割をしています。

「合いの手」を入れて歌ってみると、タイミングが合うのがわかるよ。

3 題材の課題をつかむ。

- 日本の音楽の特徴を感じ取りながら民謡を聴いたり、おはやしをつくりたりすることで、日本の音楽に親しんでいくイメージをもたせる。

日本の音楽の特徴をもっと知りたい！

合いの手やかけ声を入れてみて、楽しいおはやしをつくらしてみたいな。どんなふうに入れたらいいのかな。

【題材の課題】

日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくらう。

- 課題解決に向けた、大まかな見通しを確認させる。



自分のおはやしをつくらって、そのあとに友だちのつくれたおはやしとつなげていくんだね。

最後にできたおはやしをクラスで発表するんだね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 題材で学んでいきたいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

日本の音楽の特徴を「旋律」や「リズム」から見付けることができた。

声を伸ばしながら、だんだんと音が上がっていく旋律や合いの手、かけ声が入ることが民謡の面白さだとわかった。みんなと民謡を歌ったり、合いの手やかけ声を入れたりして楽しいおはやしをつくりたいな。

中学校 第2学年

「曲の構成を理解して曲想を味わおう」

【ねらい】

動機の反復や変化、旋律の組合せ方等と曲想との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることを通して、曲想と音楽の構造との関わりに興味・関心をもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」の冒頭2小節を聴き、気付いたことや感じたことを交流させる。

あっ！この曲、聴いたことがある！



言葉で表すと「タダタダーン」って感じだね。

僕は「ジャジャジャジャーン」かな。

【めあて】



(動機)

を意識して聴き、この曲の仕組みを探ろう。

2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 曲の冒頭が「動機」であることを知り、「動機」に着目して曲を聴き取らせる。



はじめ～10小節の間に「動機」が何回使われているか、聴き取ってみましょう。

たくさん使われているな…。何回だろう？



楽譜を見ながら聴いてみましょう。



13回「動機」が使われている！あと、色々な楽器が「動機」を演奏しているね！



では、曲を通して聴いてみましょう。



- 曲全体を鑑賞し、動機が様々な形を変えながら構成されていることを確認させる。

3 題材の課題をつかむ。

- 曲想と音楽の構造との関わりについて理解したり、言葉によるリズムアンサンブルを創作したりしていくことへのイメージをもたせる。

音楽の構成や作曲者の考えについてもっと知りたい！

面白そう！私達も、この曲のように構成を生かして、リズムアンサンブルをつくらしてみたい！

【題材の課題】

曲の構成や形式の特徴を聴き取り、聴き取ったことを生かしてリズムアンサンブルを創作しよう。

- 課題解決に向けた、大まかな見通しを確認させる。



リズムアンサンブルのテーマを決めないでね。

テーマを基にリズムをそれぞれが作り、リズムアンサンブルを創作していくことになるね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 題材で学んでいきたいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「動機」を基に構成されている音楽の特徴を知ることができた。

聴いたことのある曲が、「動機」を基に曲がつくられていることを知った。曲のことをさらに知り、それを生かしてリズムアンサンブルを創作していくことが楽しみになってきた。

## 2 単位時間の作り方（「追求する」過程）【例】

「追求する」過程では、表したい思いや意図をもたせ、聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を結び付けながら、表現を工夫させることが大切です。表現を様々に試すことで工夫する楽しさを味わい、思いや意図を膨らませられるようにしましょう。

※「A表現」を例に  
【指導のポイント】

### 【常時活動等を充実させるために】

- 題材のねらいにつながる楽しい活動にする。  
＜例＞
- ◆拍に合わせてリズムリレーを行う。
- ◆限定された音を用いて旋律をつくる。 等

### 【めあての設定】

- 音楽を形づくっている要素が含まれているめあてを示す。  
＜例＞
- 「自分たちのイメージに合った～になるように、～(音楽を形づくっている要素)を工夫して試そう。」 等

### 【思いや意図を膨らませるために】

- 子供たちが表したい思いや意図、音楽表現をワークシート等に記録し可視化させる。  
(「4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫について」参照)

### 【表現のよさや面白さを共有・共感するために】

- 表現の変容を捉えさせる場を設定する。  
＜例＞
- ◆中間発表を行う。
- ◆いくつかの取組を意図的に紹介し、全体で試す。
- ◆グループ間で聴き合いアドバイスし合う。 等

### 【振り返りについて】

- ＜振り返りの視点の例＞
- ◆音楽を形づくっている要素を手がかりに試して、「何ができたか。」  
「どのように雰囲気が変わったか。」
- ◆友達の表現を聴いて、「どんなことが分かったか。」  
「生かしてみたいことは何か。」
- ◆次時や次過程に向けて、「どのようなことを試して表現を工夫していきたいか。」 等

### 基本的な流れ

#### 1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるリズム遊びやハーモニー遊び等の常時活動や、既習曲の演奏等を行わせる。

#### 2 本時のめあてをつかむ。

- 前時の学びを紹介したり演奏させたりして、音楽を形づくっている要素と関連付けながらめあてを設定する。

#### 【めあて】

#### 3 思いや意図に合った表現をするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- 表したい思いや意図を問いかける。
- 思いや意図を基に、音や音楽、言葉を通して伝え合い、様々な表現を試させる。その際、音楽を形づくっている要素とその働きから、音楽の雰囲気が醸し出される理由を問いかける。
- 「なぜそのように工夫したのか(感じたのか)」など、教師が問いかけながら、児童生徒が聴き取ったこと(知覚)と感じ取ったこと(感受)とを結び付け、児童生徒に意識化させていく。
- 友達の表現の工夫を認め合ったり、鑑賞曲を聴き直したりする場を設定し、児童生徒が表現を工夫する際の手がかりにする。

#### 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 表現のよさや面白さを、音楽を形づくっている要素と関連付けて確認し、言葉や板書でまとめる。

#### 学習のまとめ

- 表現を試してみて、気付いたことや感じたこと、分かったことを基に、自己の変容を振り返らせる。

#### 振り返り

小学校 第4学年

「日本の音楽に親しもう」

【ねらい】

旋律をつなげて演奏し、「おはよしの旋律」をグループごとにまとめる活動を通して、思いや意図を基にまとまりを意識した音楽をつくることができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 五つのリズムパターンを提示し、リズムリレーをさせたり、五つの音（ミ・ソ・ラ・ド・レ）を使い、リコーダーで即興的に旋律をつくったりする活動を設定する。



2 本時のめあてをつかむ。

- 前時につくった各自のお囃子の旋律をペアで交互につなげて演奏させ、子供たちの気付きを基にめあてを設定する。



つなげ方を変えると、雰囲気も変わったね。



つなぐ人数を増やすと、もっと面白くなりそう。

【めあて】

グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。

3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- どのようなおはやしにするか、各グループで考えるよう促す。

盛り上がるおはやしにしたいな。どんなつなげ方にすればいいのかな。

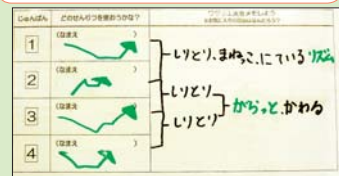


- 三人組で互いの旋律を聴き合い、それぞれの特徴に着目させながらつなげ方を考え、試行させる。

リズムが似ているけど、旋律の高さが違うね。

なぜこの順番でつなげたのかな？

低い旋律の後に高い音をつなげると、盛り上がる感じになるからです。



<工夫等を可視化した例>

- 中間発表の場を設定し、他のグループのよさや面白さを共有・共感させる。

低い旋律の後に高い旋律をつなげると、「呼びかけとこたえ」のよう面白いな！



4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 次時に向けて試したいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「旋律」や「リズム」の特徴を生かしてつなげ方を工夫したことで、お囃子を面白くすることができた。



今日の授業を振り返り、できたことや分かったこと、次の時間にやってみたいことは何ですか？

低い旋律の後に高い旋律をつなげてみたら、「呼びかけとこたえ」みたいで面白くなったよ。次の時間はリズム伴奏を重ねておはやしを盛り上げていきたいな。



中学校 第2学年

「曲の構成を理解して曲想を味わおう」

【ねらい】

構成図を使い、自分たちの思いや意図に合ったリズムアンサンブルを試行する活動を通して、思いや意図を基に構成を意識した音楽を創意工夫することができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 手拍子によるリズムの模倣、即興等に取り組ませる。



前の時間に、こんなリズムをつくった人がいましたね。全員でリズム打ちをしてみましょう。

2 本時のめあてをつかむ。

- 給食の献立をテーマにして前時につくった各自のリズムを、つながり方や重なり方を様々に組み合わせて試行し、リズムアンサンブルを創作していくことを伝える。

リズムのつながり方や重ね方をいろいろ試してハンバーグの材料を混ぜている様子を表すリズムアンサンブルをつくっていきましょう！



【めあて】

構成を工夫して、リズムアンサンブルをつくろう。

3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- どのようなリズムアンサンブルにするかについて、各グループで考えるよう促す。

材料をどんどん混ぜていく様子が伝わるように、構成を工夫したいな。



- 班ごとにリズムパターンの組合せを試行し、吟味しながらリズムアンサンブルを創作させる。

材料をどんどん混ぜていく様子が伝わるように、リズムを少しずつずらしてみよう。



なるほど！では、どんなアンサンブルになっているのかを聴かせてくれますか？

- 途中でグループの取組状況を紹介し、どのような工夫がされているかを全体で共有・共感させる。

4拍ずつずらして重ねることで、材料を混ぜていく様子を表現しているんだね。僕たちのグループでは思いもつかなかった。試してみよう！



<取組を紹介する>

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 次時に向けて試したいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「つながり方」や「重なり方」を工夫したことで、それぞれの班のリズムアンサンブルがはじめよりも面白く、表現の幅を広げることができた。



今日の授業を振り返り、できたことや分かったこと、次の時間にやってみたいことは何ですか？

4拍ずつずらして重ねてみたら、材料を混ぜていく様子が表現できて、テーマに合ったリズムアンサンブルになった。発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えて、みんなの前で発表したい。





## 2 単位時間の作り方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、子供たちの思いや意図を表現するための知識及び技能も併せて高まっていることも大切です。そして、題材を振り返る際には、音楽を形づくっている要素とその働きや生活や文化等とを関連付けた振り返りをさせましょう。

※「A表現」を例に  
【指導のポイント】

### 【「めあて」の設定】

○題材のまとめに向けた活動や方法を示す。  
<例>  
「グループの作品を演奏し合って、それぞれのよさや面白さを見付けよう。」 等

### 【知識及び技能を高めるために】

○思いや意図に合った表現をするために必要な知識及び技能を習得させていく。その際、機械的な知識の習得や技能の訓練とならないようにする。  
○「追求する」過程でも同様に、個々の思いや意図を関連付けながら、意図的・計画的に指導する。

### 【互いの表現の高まりを認め合う】

○表現の高まりを実感できるよう、場の設定や手立てを選択する。  
<例>  
◆イメージや工夫点を発表し、演奏する。  
◆イメージや工夫点を意識して聴取する。  
◆表現のよさや面白さを伝え合う。  
◆発表後、実際に演奏し共有・共感する。 等

### 【振り返りについて】

○以下の例を組み合わせるなどして、題材全体の振り返りをさせる。  
<例>  
◆音楽を形づくっている要素とその働きと関連付けさせる。  
◆生活や文化等と関連付けさせる。  
※生活や文化（中学校では社会、伝統）と関連付けた振り返りは題材による。  
◆題材での学びを、今後の学習にどのように生かし、活用していくかの視点で考えさせる。

### 基本的な流れ

#### 1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるよう、前時までの取組を紹介したり、実際に演奏させたりする。

#### 2 本時のめあてをつかむ。

- 前時や題材を通しての学びを想起させ、子供たちの気付きを基に、題材全体を振り返ることができるめあてを設定する。

【めあて】

#### 3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。

- 児童生徒が表したい思いや意図をもち、それを実現するための知識及び技能を習得することの必要性を実感させる。
- 互いの表現を発表し合ったり、全体で共有し合ったりして、音楽表現を深めさせる。

#### 4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

- 児童生徒に題材の学びを想起させ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点等でまとめる。

学習のまとめ

- 題材全体のまとめを基に、できるようになったこと、分かったこと、今後生かしていきたいことなど、題材全体の学びの振り返りをさせる。
- 子供たちに振り返りの内容を発表するよう促す。
- 題材での学びの実感を共有・共感できたことを称賛する。

題材全体の振り返り



小学校 第4学年

「日本の音楽に親しもう」

【ねらい】

グループでつくったお囃子を演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 前時までに工夫した各グループの表現の中から、よさや面白さを感じたものを取り上げ、全体で演奏させる。

旋律のつなげ方の中で心に残ったものを思い出してみましょう。

「しりとり」みたいに同じ音でつなぐと、つながり方が自然でした。

2 本時のめあてをつかむ。

- 今までの学びを想起させ、題材全体を振り返るめあてを示す。

【めあて】

グループのおはやしを演奏し合って、そのよさや面白さを見付けよう。

3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。

- グループのイメージや組み合わせの工夫を伝えてから発表させ、各グループの表現の工夫を共有・共感させる。

静かに始まってだんだん盛り上げたかったので、低い音から高い音になるように「しりとり」でつなぎました。最後は、はじめの旋律を3人で演奏します。

♪演奏発表♪

このグループのよかったところや面白かったところはどこですか？

盛り上がるように、最後はみんなで一斉に演奏したところです。

みんなで吹くと、どんな感じになりましたか？

力強くなって、お祭りをみんなで盛り上げている感じがしました。

- 印象に残った表現を取り上げ、全体と一緒に演奏させる。
- 演奏してみると、友達の工夫がよく分かったよ。

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

- 学んだことをどのように生かしたいかを含め、題材全体の振り返りをさせる。

民謡を聴いたり、民謡に使われている5つの音を基におはやしをつくらうことで、日本の音楽に親しむことができた。

これまでの学習を振り返り、できるようになったことや分かったこと、これからの授業や生活の中で生かしていきたいことは何ですか？

自分のつくった低い音を使った旋律と友達のつくった高い音を使った旋律をつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができて、自分たちのつくりたかったおはやしができた。これからは、お祭りのとき、どんなおはやしが流れているかも聴いてみたいと思った。

中学校 第2学年

「曲の構成を理解して曲想を味わおう」

【ねらい】

グループでつくったリズムアンサンブルを演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、創意工夫する楽しさや喜びを実感できるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 前時までにつくった作品の中で、リズムや構成を工夫したグループを取り上げ、紹介する。
- 重ね方や組み合わせ方をいくつか例示し、どのような効果があるのかを全体で確かめさせる。

発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重ね方を整えよう。

2 本時のめあてをつかむ。

- 今までの学びを想起させ、題材全体を振り返るめあてを示す。

【めあて】

グループの発表を通して、それぞれのリズムアンサンブルのよさや面白さを味わおう。

3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。

- グループで表したいテーマを表現できるよう、リズムやテクスチャ、構成等を考えながら表現をまとめさせる。

料理ができあがった感じになるように、最後はみんなでタイミングを合わせてみよう。

- グループごとに演奏させ、表現のよさや面白さを伝え合わせる。

それぞれのグループがテーマに合うように、つながり方や重ね方を工夫していることがよく分かった。

構成を工夫してリズムアンサンブルをつくろう

①	ハンバーグの作り方	組6班
②	ハンバーグの作り方	
③	ハンバーグの作り方	
④	ハンバーグの作り方	
⑤	ハンバーグの作り方	
⑥	ハンバーグの作り方	
⑦	ハンバーグの作り方	
⑧	ハンバーグの作り方	
⑨	ハンバーグの作り方	
⑩	ハンバーグの作り方	

<生徒の作品例(ハンバーグの作り方)>

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

- 学んだことをどのように生かしたいかを含め、題材全体の振り返りをさせる。

構成や形式等に注目して鑑賞したり、それを生かして構成を工夫したリズムアンサンブルを創作したりすることができた。

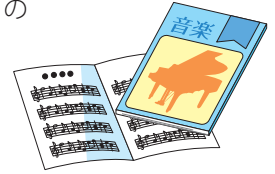
これまでの学習を振り返り、できるようになったことや分かったこと、これからの授業や生活の中で生かしていきたいことは何ですか？

作曲家は曲をつくるために、構成や形式を踏まえているだけでなく、「このように運命の扉をたたく」といったように、思いを込めていることが分かった。リズムアンサンブルでも、構成を工夫してテーマがより伝わるアンサンブルになるように創作することもできた。これからは一つ一つの曲に、今まで以上に気持ちを込めて歌ったり演奏したりしていこうと思った。

## 3 学習過程と教科書との関連

### <題材での活用>

音楽科の教科書は、特に小学校において各領域や分野の内容、共通教材との関連を図って構成されており、そのまま活用することができます。また、児童生徒の実態や学校行事、他教科等との関連などを踏まえ、教科書の構成を基に、題材を配列し直して活用することがあります。



### <資料としての活用>

- ・楽譜の活用…音楽を形づくっている要素とその働きを捉える。



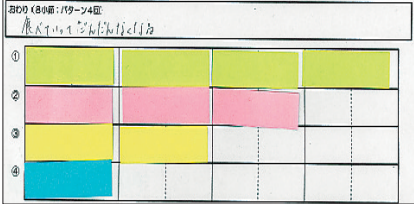

楽譜は、音楽を目に見える形で表すために先人の営みから生まれた音楽文化の一つです。共通教材等を指導する際には、音楽文化の理解を深めるためにも、楽譜から音楽的な特徴を捉える場を設定していきましょう。

- ・歌詞の活用…曲想、音楽の構造、曲の背景を捉える。
- ・写真・イラストの活用…曲のイメージを膨らませたり、情景を視覚的に捉えたりする。

### <その他の資料等>

音楽の学習を充実させるために、様々な資料集や歌集等が出版されています。必要に応じて活用していきましょう。

## 4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
音楽を形づくっている要素（リズム、速度等）の聴き取りが難しい場合	<p>音楽的な特徴を捉えやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要素に着目しやすくなるよう、要素の表れ方を動作化する。（拍を打ったり体を動かしたりするなど。）</li> <li>※決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。</li> </ul>
情報量が多く、どこに注目したらよいか混乱する場合	<p>視覚的に情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋紙を用いて、構造を単純化したり拡大楽譜を用いて声部を色分けする。</li> <li>・リズムや旋律を部分的に取り出してカードにする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>&lt;付箋紙を用いて構造を単純化した例&gt;</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>&lt;拡大楽譜を用いて声部を色分けした例&gt;</p> </div> </div>
様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合	<p>表現したい言葉を思い出すきっかけをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージや感情を表すキーワードを示し、選択できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>             会話をしている はずんだ はでな              かわいらしい あせっている              つき進む さわやかな わくわくする              きらきらした せつない きれいな              まぶしい せまってくる ゆるやかな              もりあがる 広がっていく              荒々しい どきどきする              にぎやかな はく力がある そう大な         </p> </div> <p>&lt;イメージや感情を表すキーワードの例&gt;</p>

## 5 情報活用能力の育成

音楽科における情報・・・表現したり鑑賞したりするための音や音楽、楽譜、歌詞、映像 等

- 〈例〉
- ・身の回りの音や音楽
  - ・音楽を形づくっている要素
  - ・用語や記号
  - ・教材の楽譜や歌詞
  - ・教材の参考音源
  - ・教材を演奏している映像
  - ・作曲者が曲をつくるきっかけとなった文学作品や絵画
- 等

### 基本的な操作 〈例〉

#### ○情報を収集する学習

⇒曲の背景や作曲者等をインターネットで検索

#### ○情報を整理・比較する学習

⇒自分たちの演奏のよさや課題に気付くよう、ICレコーダー等を活用して録音し記録

⇒視覚と聴覚で確認しながら試行錯誤し、リズムや旋律をつくるよう、作曲用ソフトで操作

#### ○情報を発信・伝達する学習

⇒音楽表現の工夫を記したワークシート等を実物投影機で操作



※コンピューターなどの操作そのものが目的化しないように留意する。

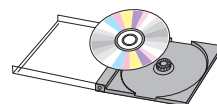
### 情報モラル・セキュリティ

- ・音楽に関する著作権等の知的財産権
- ・著作物や著作者の創造性を尊重する態度の形成

※題材の内容に応じて、学習した曲の作詞者、作曲者、編曲者を確認したり、知的財産権について触れたりする。

〈例〉

- ・「校歌」の作詞者や作曲者について調べ、著作者について知るとともに、どのような思いや願いを込めてつくったのか思いを巡らせる。
  - ・児童生徒自ら曲をつくることで聴き合って認め合う機会を設け、自他の作品を大切に思えるようにする。
- 等



### 情報の収集

#### ○表現したり鑑賞したりするための情報を収集する

〈活動例：新たに学習する合唱曲の情報を収集する〉

- ・参考音源や演奏している映像等から、新たに学習する曲に出会う。
  - ・曲の中の音楽を形づくっている要素とその働きを知る。
  - ・インターネットを活用し、作詞者や作曲者、曲がつくられた背景等を調べる。
- 等

### 問題解決における情報活用

#### 情報の整理・比較

##### ○表現したり鑑賞したりするために収集した情報を整理・比較する

〈活動例：思いや意図に合った表現になるよう整理・比較する〉

- ・音楽を形づくっている要素とその働きの視点を基に、表現方法を様々に試して比較する。
  - ・思いや意図に合った表現を選択する。
- 等

#### 情報の発信・伝達

##### ○表現したり鑑賞したりするために整理・比較した情報を基に、発表等で発信・伝達する

〈活動例：中間発表等を通して互いの表現の工夫を共有し、自己の表現に生かす〉

- ・パートごとの表現の工夫を伝え合い、それぞれの表現のよさを実感する。
  - ・互いの表現のよさを、自己の表現に生かす。
- 等



## 6 地域の人材や物的資源の活用

### <人材活用例>

- 器楽指導で専門性のある保護者や地域の方にTTを依頼
- 地域のお囃子保存会等に講師を依頼
- 卒業生等、地域の音楽家による音楽教室での演奏発表
- 合唱コンクールの審査員として校区の音楽主任を招聘
- 地域の福祉施設等に訪問して演奏

以下にも例を示しますので、授業等で有効活用し、指導を充実させていきましょう。



<邦楽教室における地域団体の活用>

関係施設	実施可能内容	問い合わせ先
群馬県総合教育センター内 カリキュラムセンター	楽器の貸出 <貸出可能な楽器・数> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏セット22 (座奏用鳥居台・柱・爪含む)</li> <li>・見台(座奏用の譜面台)</li> <li>・立奏台(椅子使用時の鳥居台)</li> <li>・三味線セット16</li> <li>・やぐら太鼓 1</li> <li>・締太鼓 2 (締太鼓の練習用タイヤ3)</li> <li>・雅楽セット 1 (笙・龍笛・箏)</li> <li>・尺八 1</li> <li>・大鼓 1</li> <li>・小鼓 1</li> <li>・能管 1</li> <li>・篠笛 3本セット 1</li> <li>・こぎりこ 1</li> <li>・びんささら 1</li> <li>・棒ささら 2</li> <li>・テナーリコーダー 1</li> <li>・バスリコーダー 1</li> </ul>	☎0270-26-9208 <a href="http://www.nc.center.gsn.ed.jp/">http://www.nc.center.gsn.ed.jp/</a>
群馬県生涯学習センター 「まなびねつとぐんま」	団体や講師の検索	☎027-224-5700 <a href="http://www.manabi.pref.gunma.jp/">http://www.manabi.pref.gunma.jp/</a>



<三味線セット>



※各市町村文化協会に問い合わせると、加盟団体を紹介していただける場合もあります。

事業名・内容	問い合わせ先
<b>【はじめての文化体験事業】</b> 優れた文化芸術活動を行っている県内のアマチュア文化団体を有償ボランティアとして地域に派遣し、子ども向けの公演、講話、実技披露、ワークショップ等を行います。	群馬県生活文化スポーツ部 文化振興課 ☎027-226-2593 <a href="http://www.pref.gunma.jp/">http://www.pref.gunma.jp/</a>
<b>【移動音楽教室】</b> 群馬交響楽団による、オーケストラを身近に体感できる取組を70年以上にわたって実施しています。	公益財団法人群馬交響楽団事務局 ☎027-322-4316 <a href="http://www.gunkyo.com/">http://www.gunkyo.com/</a>



<移動音楽教室の様子>